



第1部

本町について

1

本町の地域特性

(1) 位置と地勢

本町は、愛媛県の中央に位置し、北部は県都松山市に重信川を隔てて接しています。西部は松前町、伊予市、東部は松山市、久万高原町、南部は内子町と接しています。

本町の砥部地域は、重信川に注ぐ砥部川が中央部を流れ、盆地状の地形となっています。

また、南部に向かうにつれ標高が高くなり、広田地域は北ヶ森(1,010m)、三郷の辻(932m)などの高峰に囲まれた山間地域になっており、大部分が 15 度以上の傾斜地という、起伏の多い地形となっています。

(2) 気候

本町の気候は、地域ごとに異なっています。北部は年間を通して温暖な気候ですが、南部の山間部は、冬季に 15cm 程度の積雪もみられます。また、その中間部は、寒暖の差が大きな盆地的気候となっています。全体的には良好な気候となっており、居住に適した地域となっています。

(3) 歴史

本町は、香り高い文化と歴史が息づくまちです。

平成 17 年1月1日、「砥部町」と「広田村」が合併し、新「砥部町」が誕生しました。

両町村は、住民の生活圏や文化圏などにおいても一体性の強い地域で、農林業などの産業面も共通し、教育文化・スポーツなどの地域間交流も盛んに行われていました。

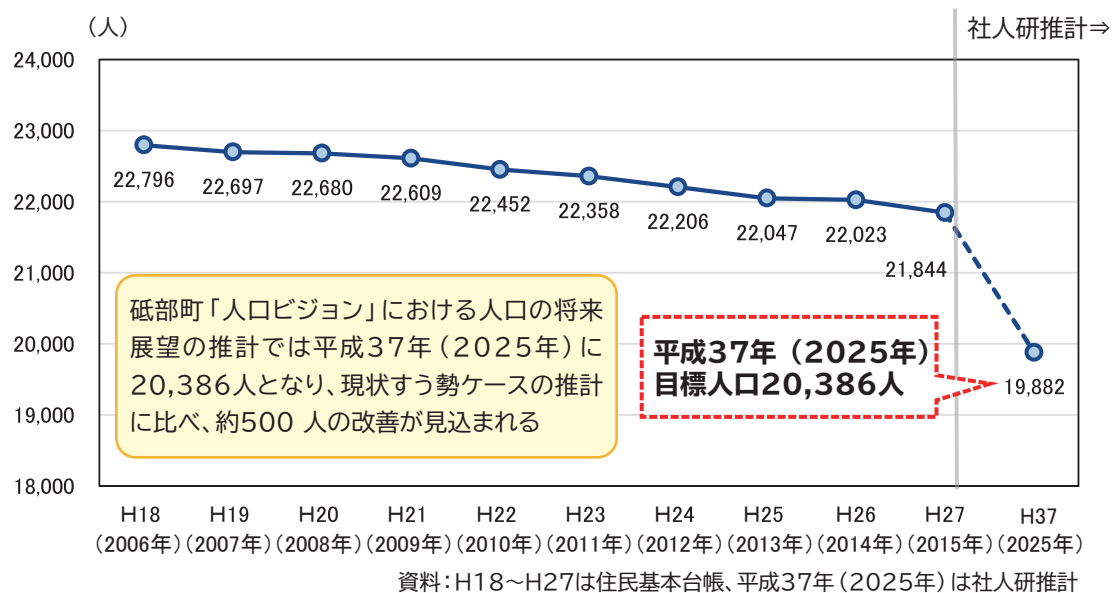
砥部焼の原料となる陶石は、広田村で採取されたもので、この砥部焼を通じて古くから交流がありました。

(4) 人口・世帯の状況

①人口の状況と推計

本町の人口は、減少の一途をたどり、平成27年には人口が21,844人となっています。また、将来推計人口をみると、平成37年（2025年）には19,882人となっており、平成27年から約2,000人減少する見込みとなっています。

■人口の推移と将来推計



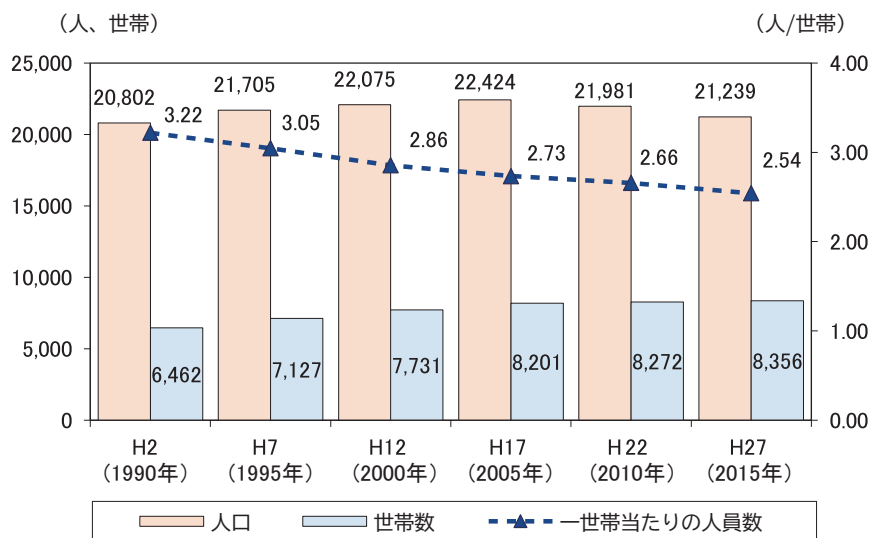
1 本町の地域特性

②世帯の状況

本町の世帯は、増加傾向にあり平成 27 年では 8,356 世帯となっています。

1 世帯当たりの人員数については、減少し続けており、平成 27 年では 2.54 人となっています。

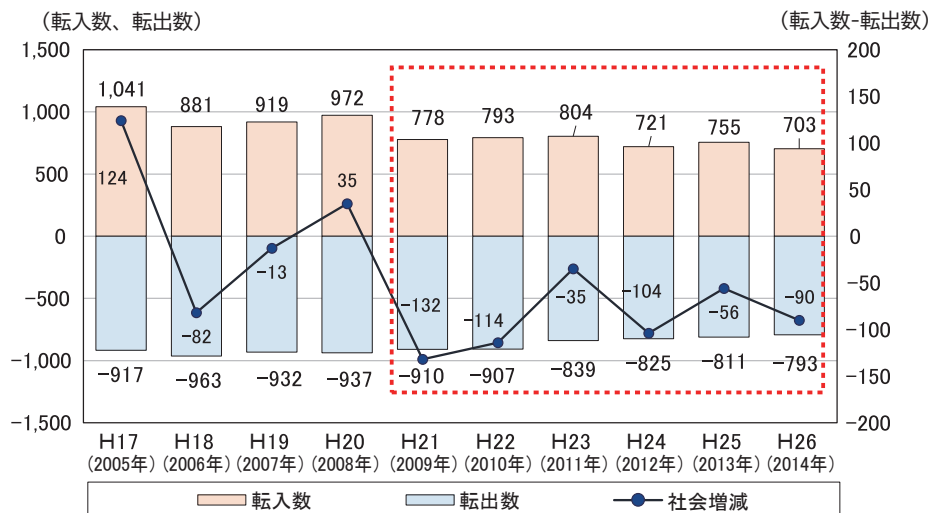
■一般世帯数と1世帯あたり人員の推移



③人口移動

本町の転入数は、増減を繰り返しながら推移しており、平成 26 年では 703 人となっています。転出数は、平成 21 年以降減少傾向にあるものの、転入数を上回る社会減の状況が続いています。

■転入数と転出数の推移

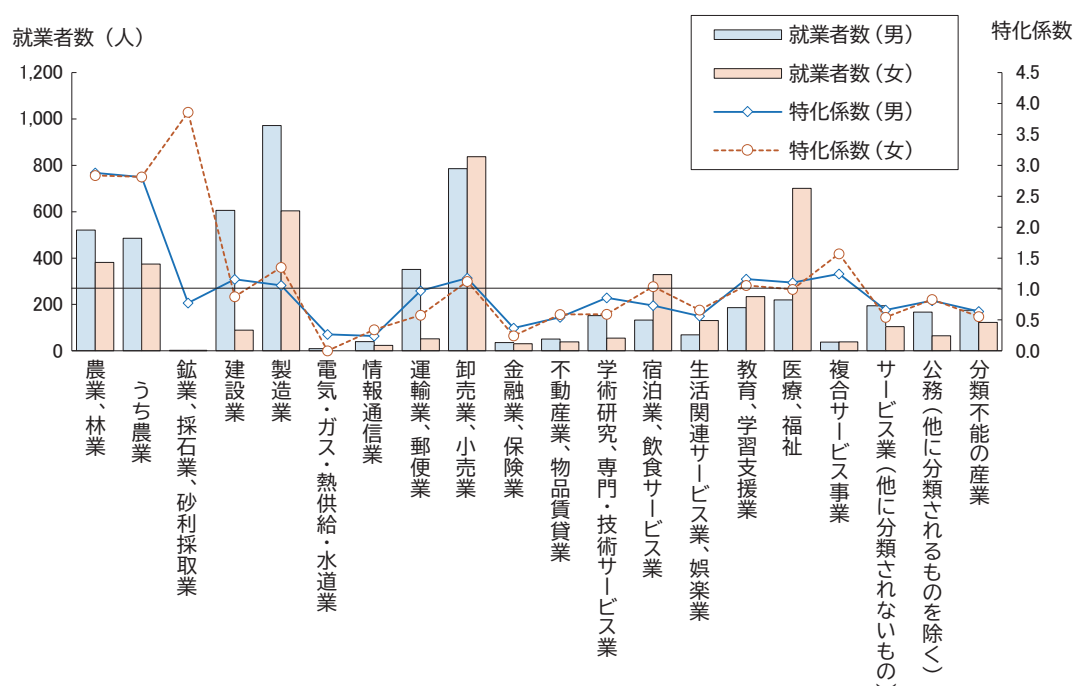


(5) 産業人口の状況

本町の就業者数は、男女ともに「製造業」、「卸売業・小売業」が多くなっています。

特化係数は、男女ともに「農業・林業」、「製造業」、「卸売業・小売業」、「教育・学習支援業」、「複合サービス事業」などが高くなっています。

■町内の就業者数と特化係数（平成22年）



特化係数とは

ある地域の特定の産業の相対的な集積度、つまり強みを見る指数のこと。

1が全国平均となっており、1以上であれば、その産業は特化していると考えられる。

資料：国勢調査

2 住民の思い

(1) アンケート調査

■調査概要

項目	内容
調査対象者	「中学3年生」全 201 人の内、欠席者などを除く 188 人 「満 16 歳以上の住民」2,000 人を対象に無作為抽出
調査期間	平成 28 年7月1日（金）～平成 28 年7月 22 日（金）
調査方法	「中学3年生」：学校を通じての配付・回収 「満 16 歳以上の住民」：郵送による配布・回収
回収数	「中学3年生」188 件中 188 件 100% 「満 16 歳以上の住民」2,000 件中 864 件 43.2%

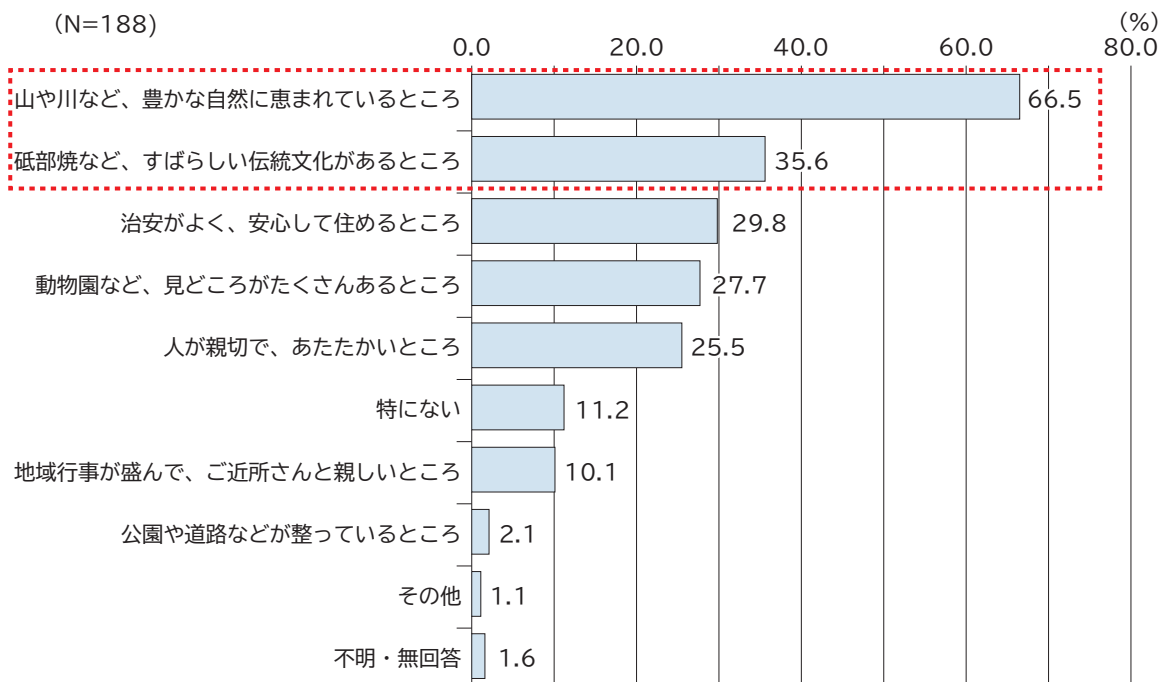
中学3年生の思い

①魅力だと思うところ

本町の『すてきなところ』についてみると、「山や川など、豊かな自然に恵まれているところ」が 66.5%と最も高く、次いで「砥部焼など、すばらしい伝統文化があるところ」が 35.6%となっています。

■問：あなたが感じる砥部町の『すてきなところ』はどこですか。

(N=188)



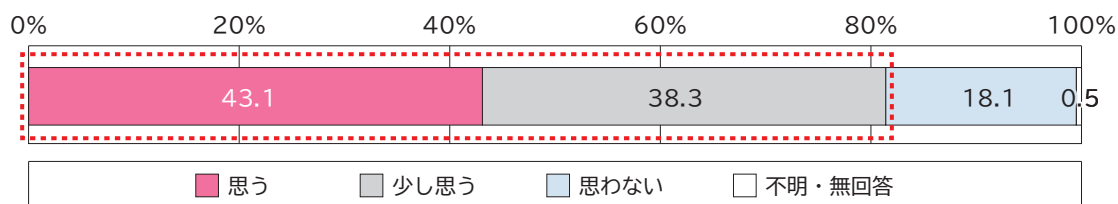
②本町に対する愛着

将来、進学や就職で本町を出ることになったとしても、また本町に戻ってきたいと思うかどうかについてみると、「思う」が43.1%ともっとも高く、次いで「少し思う」が38.3%となっています。

また、本町に戻ってきたいと思わない理由についてみると、「新しい場所で生活してみたいから」が50.0%ともっとも高く、次いで「砥部町の環境が不便で、住みにくいと感じるから」が41.2%となっています。

■問：将来、進学や就職で本町を出ることになったとしても、また本町に戻ってきたいと思いますか。

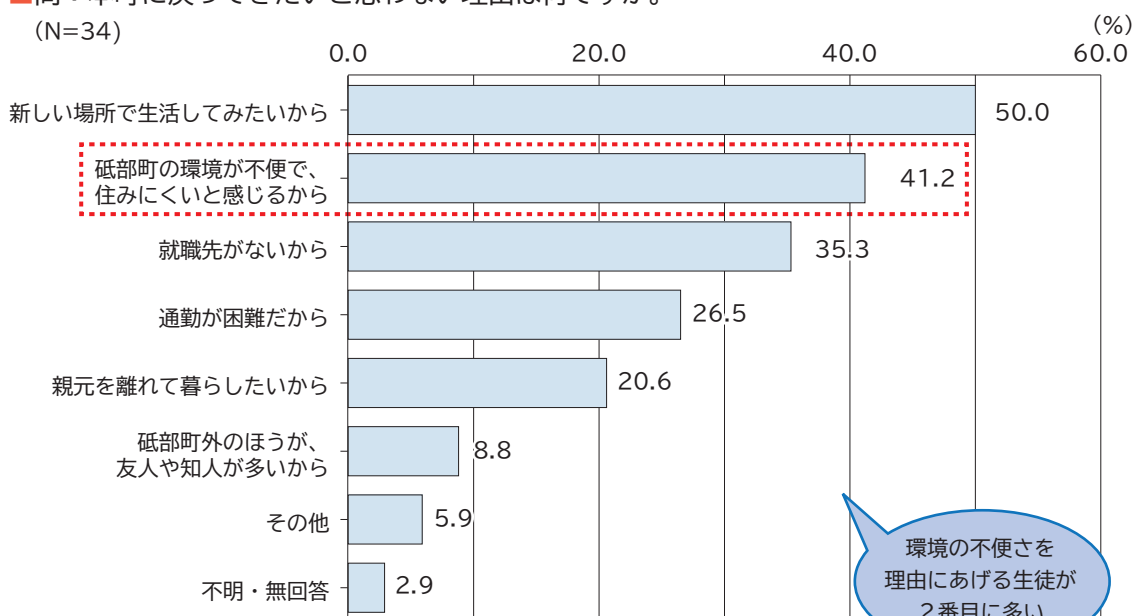
(N=188)



「思う」と「少し思う」を合わせると、8割以上が本町に戻ってきたい（本町で暮らしたい）と感じている

■問：本町に戻ってきたいと思わない理由は何ですか。

(N=34)



環境の不便さを理由にあげる生徒が2番目に多い

16歳以上の住民の思い

①まちづくりに対して感じていること

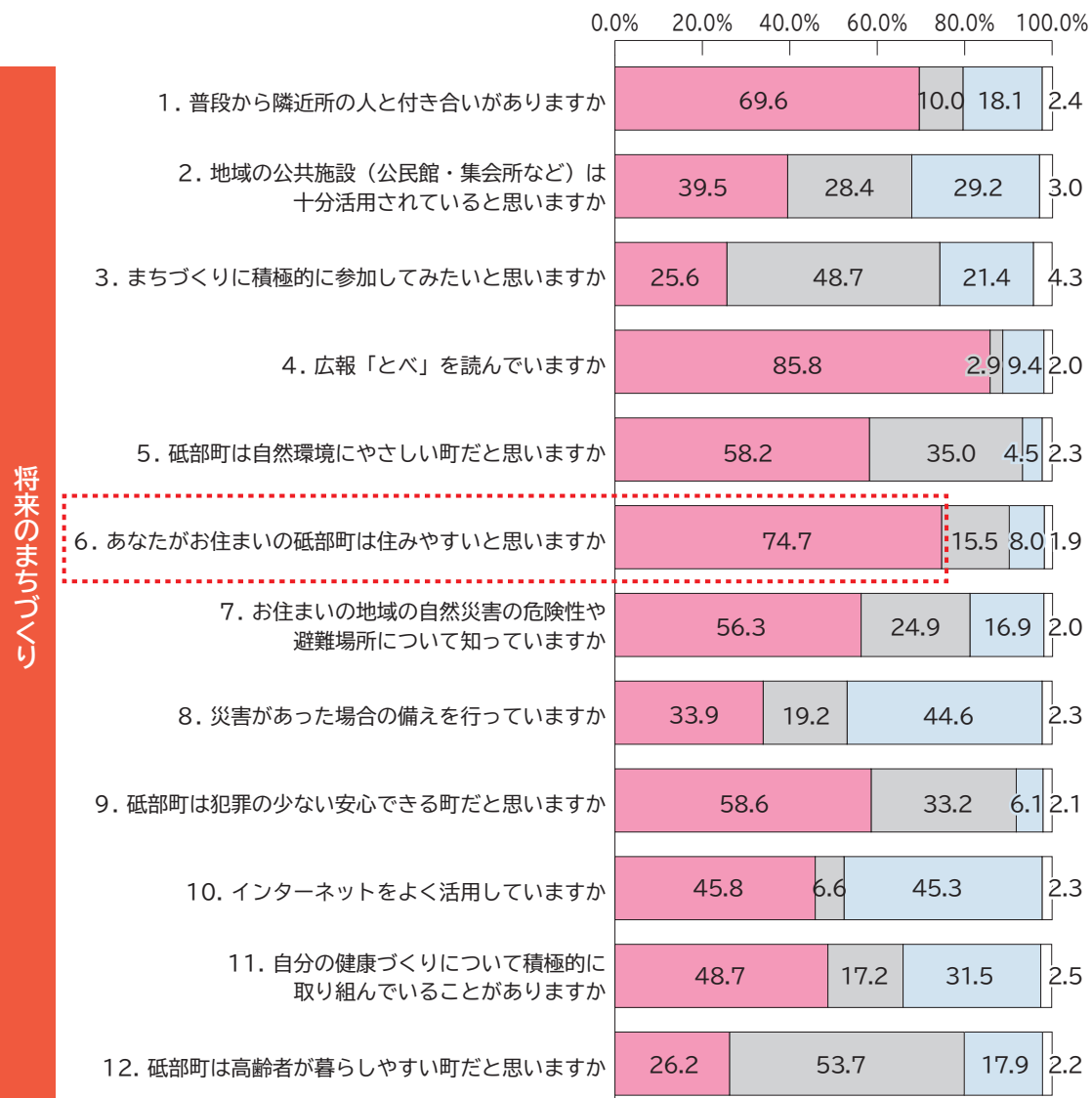
まちづくりに対して感じていることについて、本町の強みになっているのは、「普段から隣近所の人と付き合いがある」と感じていることや「住みやすい」と感じている人が多くなっています。

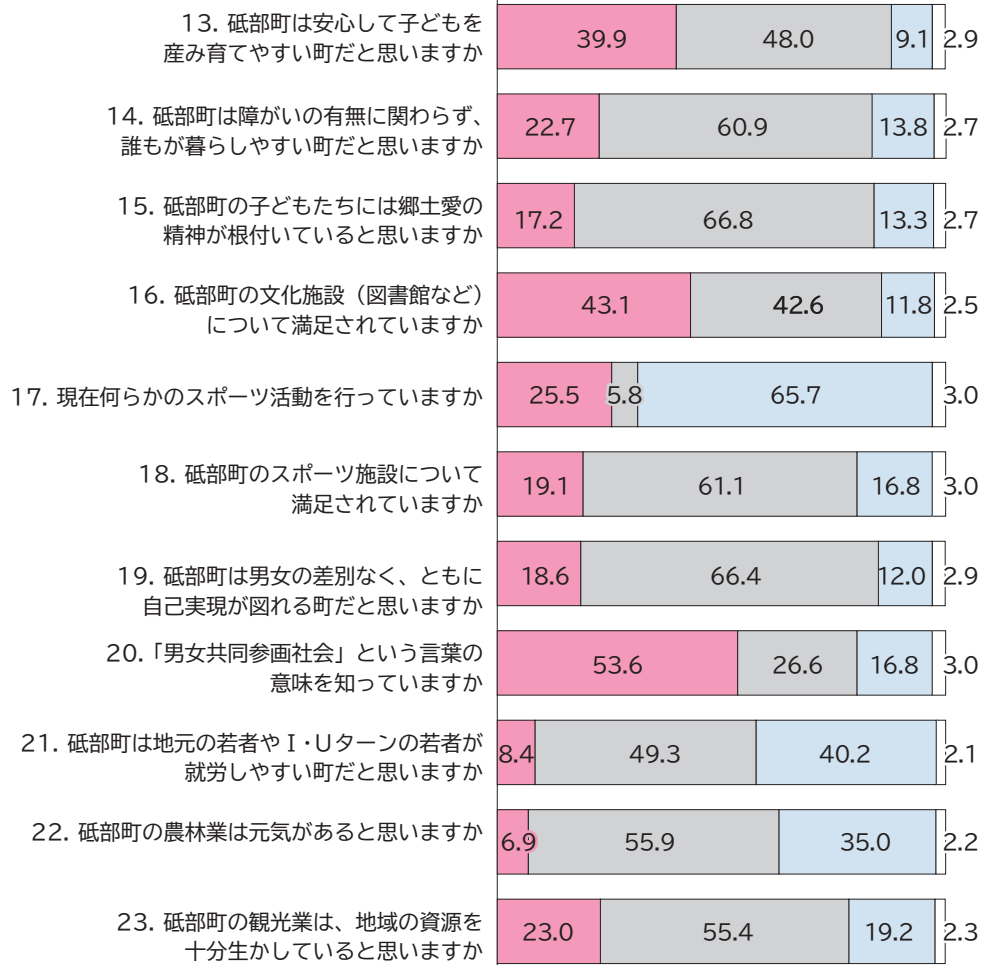
一方で、課題となっているのは、「まちづくりに積極的に参加してみたい」と思っている人が少ないことや、「スポーツ活動を行っていない」と答えた人が多くなっていることです。隣近所での付き合いがある分、地域での活動参加が課題となっています。

(N=864)

【凡例】

はい	わからない	いいえ	不明・無回答
----	-------	-----	--------





【凡例】

はい わからない いいえ 不明・無回答

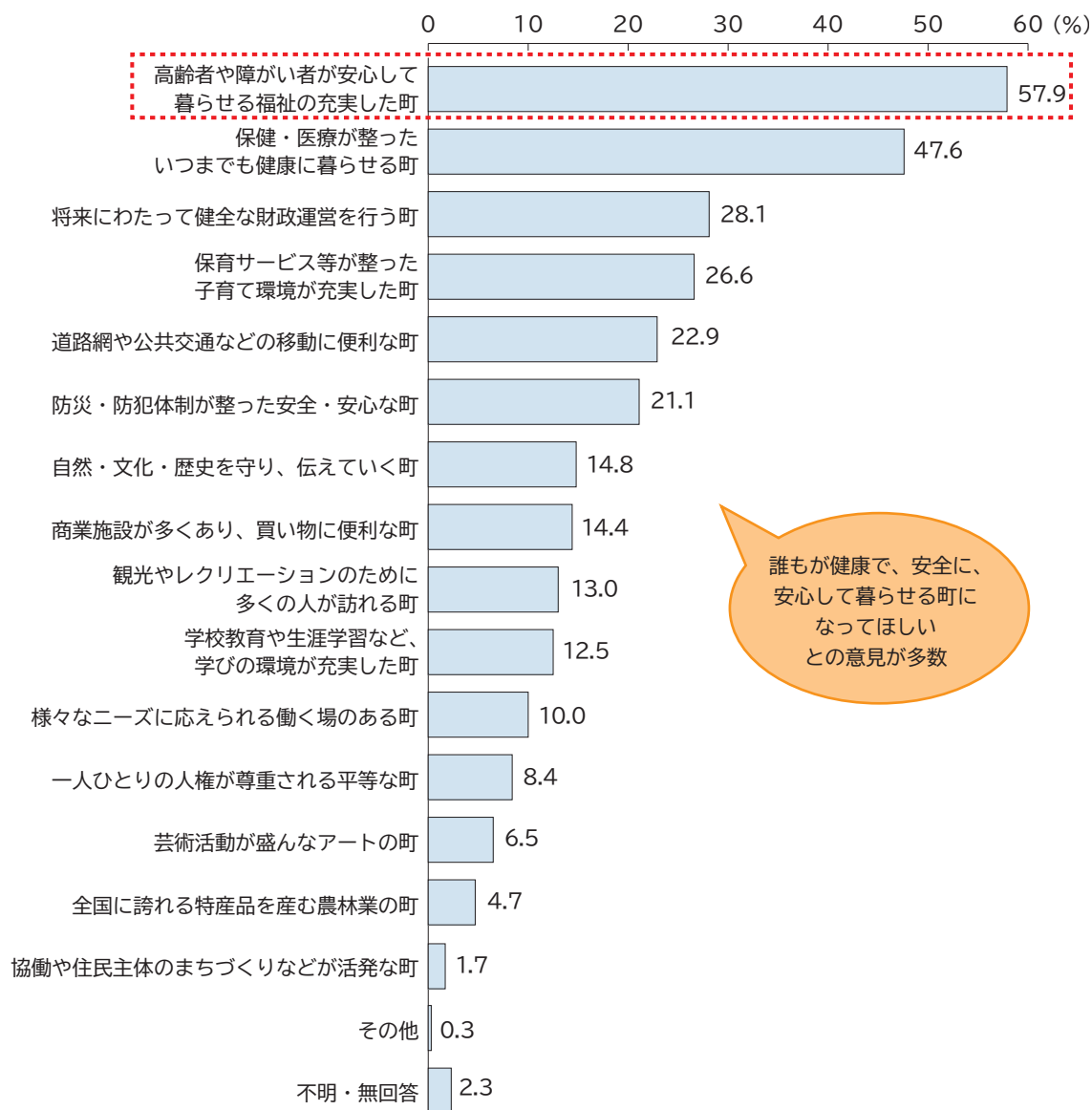
2 住民の思い

②将来なっていてほしい町のイメージ

本町が将来どのようなイメージの町になっていてほしいと思うかについてみると、「高齢者や障がい者が安心して暮らせる福祉の充実した町」が57.9%と最も高く、次いで「保健・医療が整ったいつまでも健康に暮らせる町」が47.6%となっています。

■問：本町が将来どのようなイメージの町になっていてほしいと思いますか。

(N=864)



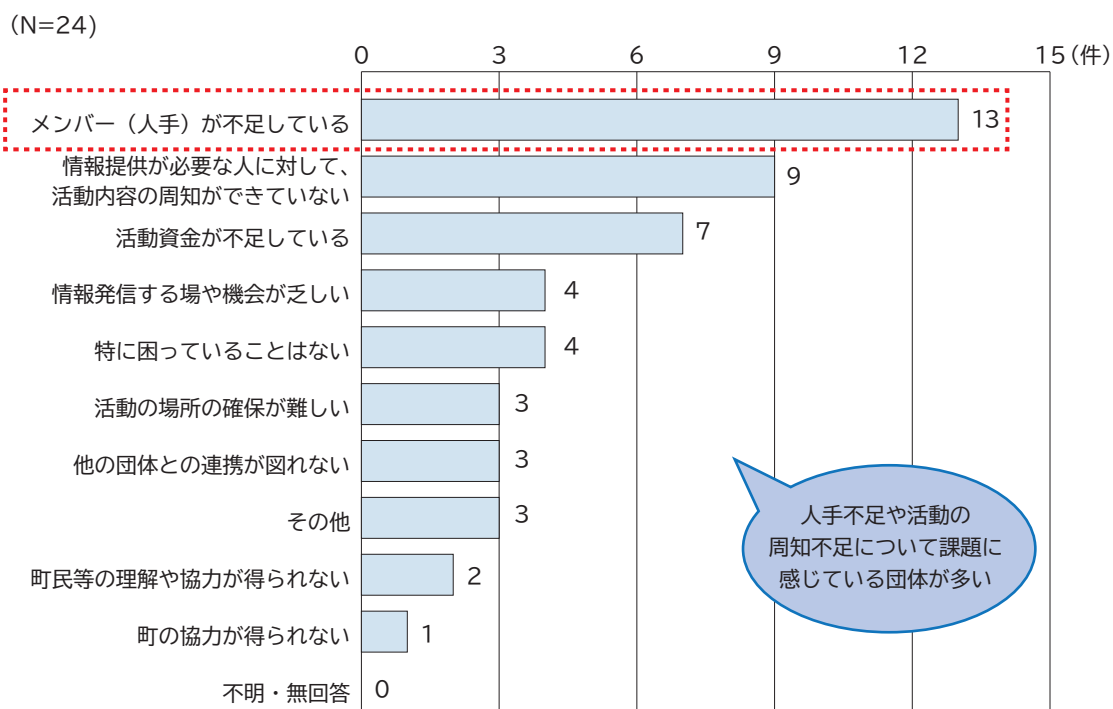
(2) まちづくり関連団体調査

■調査概要

項目	内容
調査対象者	本町内で活動している 40 団体（資料参照）
調査期間	平成 28 年 8 月 15 日（月）～平成 28 年 8 月 26 日（金）
調査方法	郵送及び手渡しによる配布・回収
回収数	40 件中 24 件 60%

①活動推進の支障になっていること、困っていること

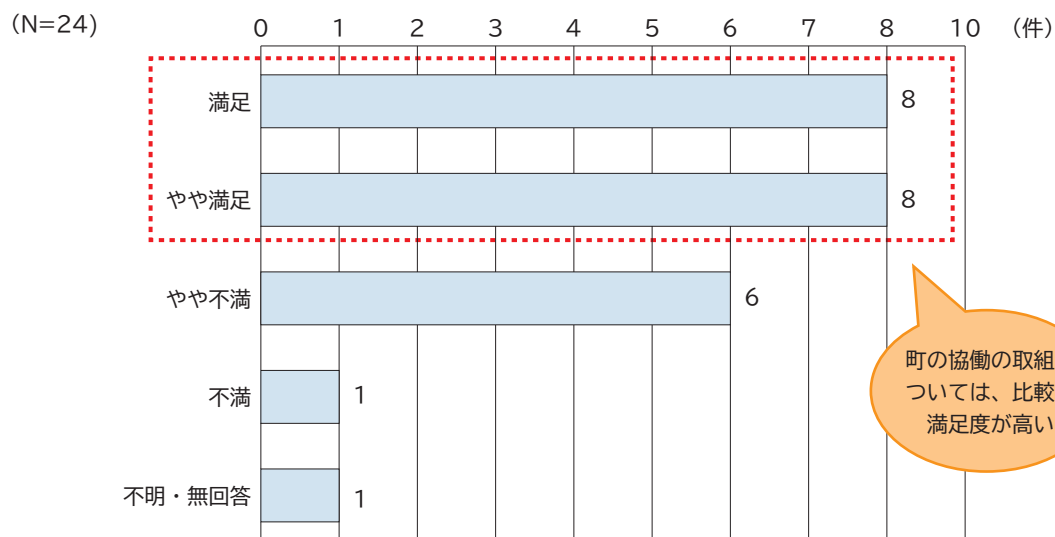
活動を推進するにあたって、支障になっていることや困っていることについてみると、「メンバー（人手）が不足している」が 13 件と最も多く、次いで「情報提供が必要な人に対して、活動内容の周知ができていない」が 9 件となっています。



2 住民の思い

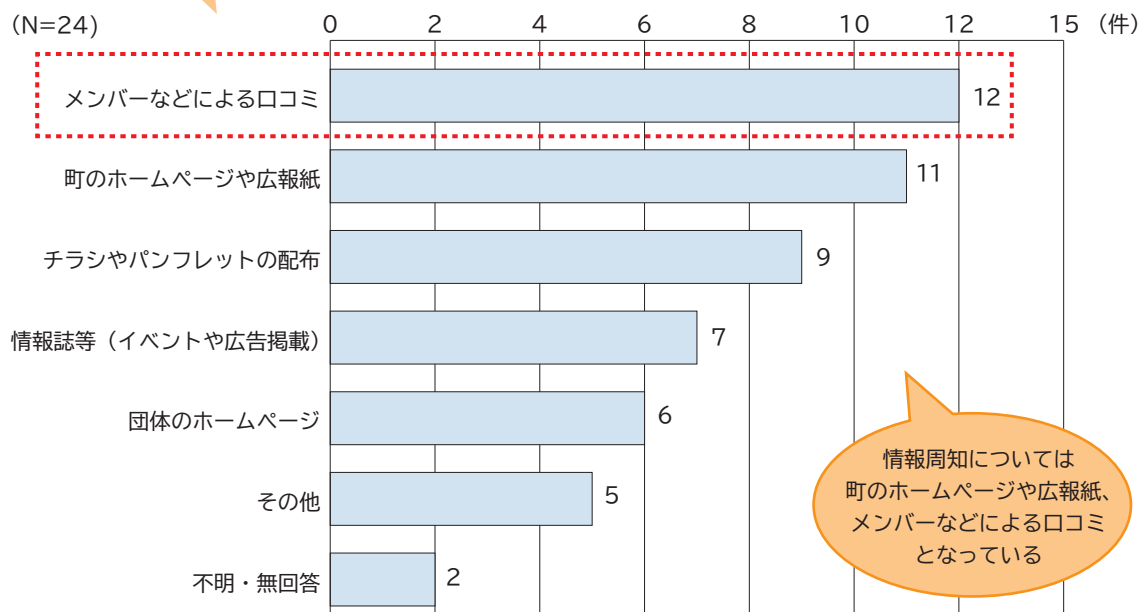
②町の協働の取組についての満足度

町の団体への協働の取組（支援や協働事業など）についての満足度をみると、「満足」「やや満足」がともに8件ともっとも多く、次いで「やや不満」が6件となっています。



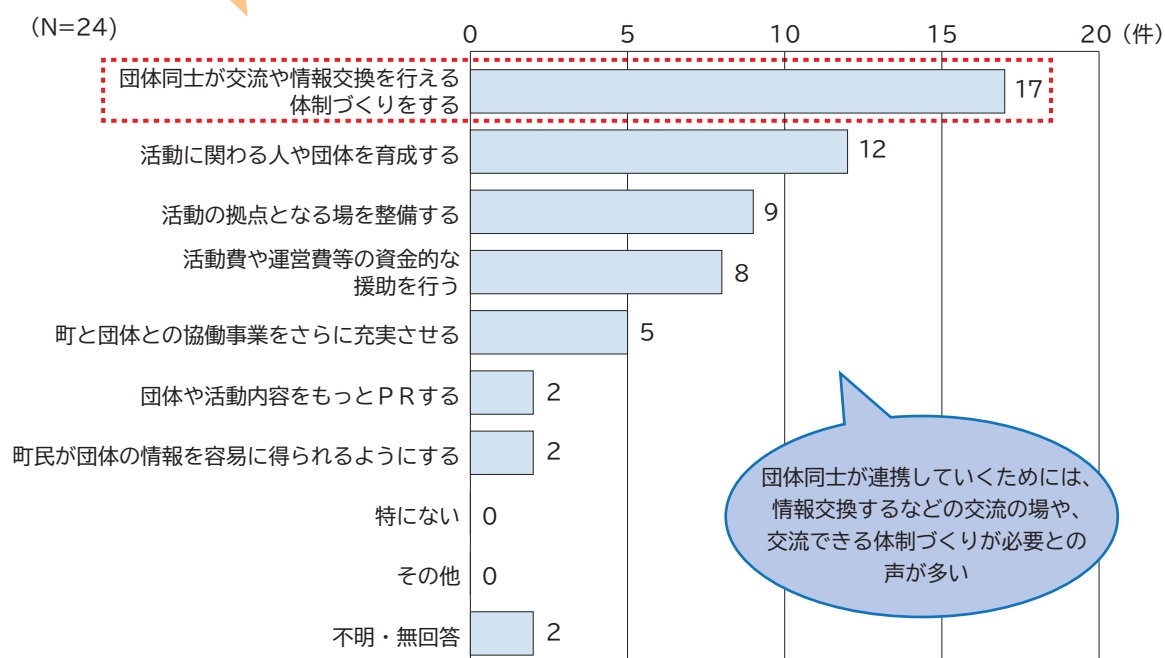
③情報発信

活動情報をどのように発信しているかについてみると、「メンバーなどによる口コミ」が12件ともっとも高く、次いで「町のホームページや広報紙」が11件となっています。



④協働によるまちづくりに必要なこと

今後、多種多様な団体が連携・協働しながら、一丸となってまちづくりを進めるためには、どのようなことが必要だと思うかについてみると、「団体同士が交流や情報交換を行える体制づくりをする」が17件と最も多く、次いで「活動に関わる人や団体を育成する」が12件となっています。



調査後の団体会議の意見まとめ

町外からの受け入れについて

これまでの調査結果などを踏まえると「近所付き合いの良さ」「人があたたかい」などの意見が共通していました。そうした中で、町外から転入された際の状況を聞くと、

○地域での役割（役員など）がすぐにできた

○地域の人があたたかい

という結果がでました。また、若い世代からは、

○松山市が近く、住むのにちょうど良い環境

○車などの移動手段に対する補助があれば良い

といった意見があり、こうした意見をまとめると本町における強みは、これまでの調査結果の傾向を裏付けるものとなっています。



2 住民の思い

(3) 住民ワークショップ (ToBe Café)

■実施概要

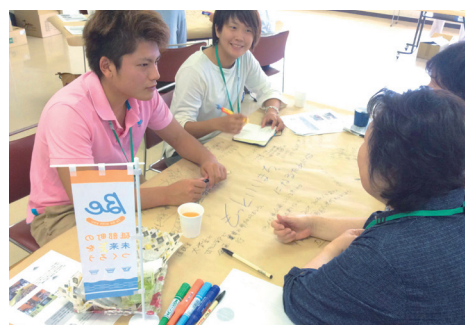
項目	内容
調査対象者	本町在住の住民
調査期間	平成 28 年9月～平成 28 年 10 月
回数	全3回

本町をもっといいまちにするためにはどうすればよいのかを議論

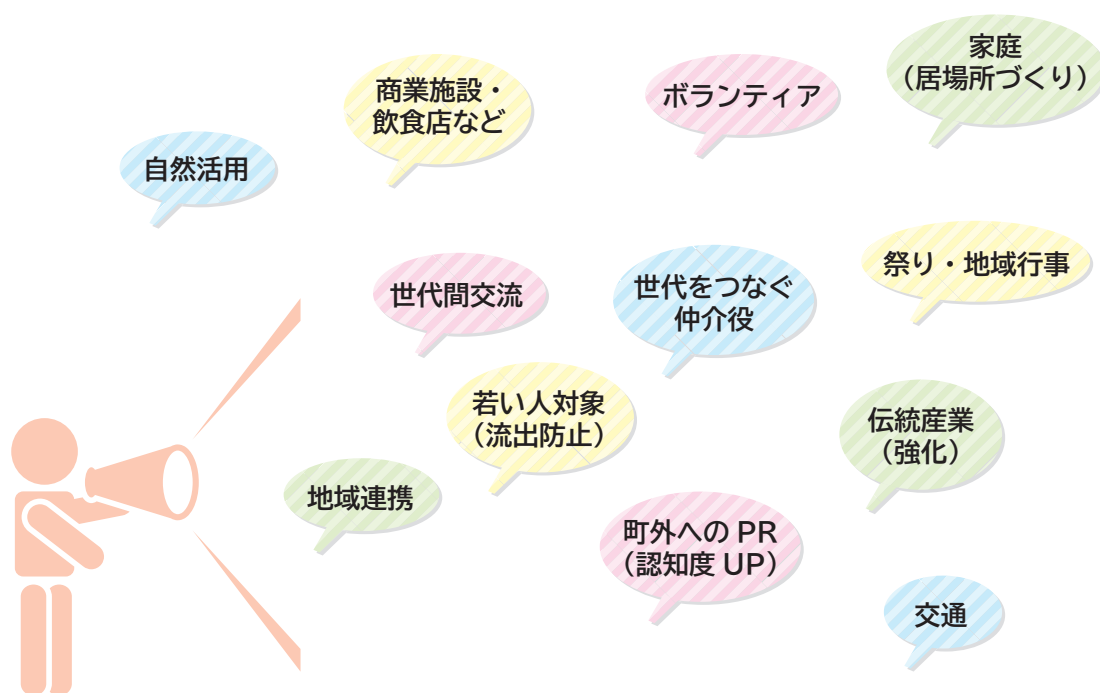
カフェのような雰囲気、自由に語り合いながら、本町をもっといいまちになるためのアイデアを出しあいました。

全3回の行程で、もっといいまちになるために

- ①本町に必要なこと
 - ②みんなのできること
 - ③住民提案プロジェクト
- をテーマに実施しました。



本町が今よりも“もっといいまち”になるために必要だと思うこと*抜粋



(1) 本町を取り巻く現状分析

本町の現況については、本町の特性を活かすべき「強み」や「機会」、克服すべき「弱み」や「脅威」といった視点から把握することが重要です。SWOT分析※の手法を用いて以下のとおり整理し、これからのまちづくりについての課題を明確にしました。

■SWOT分析

内部環境	強み (Strength) ● 山、川などの自然や文化に恵まれた地勢 ● 「砥部焼」発祥の地 ● 南予・高知方面への交通の要所 ● 県立とベ動物園や県総合運動公園、えひめこどもの城など、多種多様な資源 ● 北部地域の工場地帯、物流センターなど ● 県下唯一のデザイン専門の高等学校 ● 地域でのつながりの強さ	弱み (Weakness) ● 県下で2番目に低い合計特殊出生率 ● 人口減少・少子高齢化の進行 ● 雇用の場が限られ、若者が定着できない ● 大学などへの進学時の人口流出が多い ● 総合的な情報発信力が弱い ● 公共交通の利便性が不足 ● 地域活動への参加意思の低さ
	機会 (Opportunity) ● 地方の魅力の再評価 ● 価値観の多様化 ● 地域ブランドの設定 ● 2017年に開催されたえひめ国体 ● 大震災の発生による、安全・安心、地域のつながり意識の高まり	脅威 (Threat) ● 晩婚化・未婚化・少子化による人口減少社会の到来 ● 長期に継続する全国的な雇用不安 ● 他都道府県、他市町村への人口流出 ● 全国で展開されている『地方創生』の影響

SWOT分析からみえるまちづくりの重点課題

- ①少子高齢化による人口減少対策
- ②協働によるまちづくり
- ③安定的な行財政運営

※SWOT分析：外部環境や内部環境を強み (Strength)、弱み (Weakness)、機会 (Opportunity)、脅威 (Threat) の4つのカテゴリで要因分析し、事業環境変化に対応した計画を策定するための方法の一つ。

3 現状分析まとめ

(2) まちづくりの重点課題

① 少子高齢化による人口減少対策

全国的な少子高齢化が進む中、本町の人口も年々減少しています。本町は、県都松山市に隣接しており、ベッドタウンとして社会増が期待できる一方で、近隣市町へ転出する脅威もあります。また、高齢化の進行による自然減少も続いており、産業における後継者問題、耕作放棄地問題及び空き家問題など、取り組むべき課題が多様化してきています。

今後の人口減少の克服に向けて、平成 27 年度に策定した「砥部町人口ビジョン」、「砥部町総合戦略」を推進することで、「住みやすい、住んでよかった」と思えるまちを目指します。

また、住民には本町への愛着と誇り（シビックプライド）を醸成し、町外には、本町の魅力を発信し、本町へ来訪してもらうことが重要です。

② 協働によるまちづくり

めまぐるしく変化する社会情勢の中で、多様化・高度化する住民ニーズに対応するとともに、本町の特性を活かした自立的なまちづくりを展開するには、行政だけでなく、地域の担い手である住民や事業者などが、協調及び協働することで、パートナーとしての関係を築き、それぞれの役割を担っていくことが必要です。

本町は、行政とまちづくりに関連する団体との情報共有や相談ができる基盤があり、こうした状況は、今後のまちづくりに大きな強みとなります。今後、人口減少が進行すると予測されている中、強みである地域住民同士のつながりを強化し、協働によるまちづくりが重要となります。

③ 安定的な行財政運営

本町は実質公債費比率や経常収支比率などの基準から判断すると、愛媛県内でも比較的良好な財政運営状況となっています。今後、人口減少を背景として税収の減少を見据え、限られた財源の中で、効率的かつ実効性のある行財政運営を推進するためには、財源の確保や事業の取捨選択、業務の効率化など、持続可能な行財政運営に向けて、さらなる基盤強化を図ることが求められています。